紙人

SOCIAL
PAPER
KUMIBITO

福井が好きだから「伝えたい・残したい」、福井の宝もの。

【特集】
卓球台のある暮らし

卓球
楽しいね！
じゃあお茶
いっぺん
飲もさ

No.18
2015

卓球cafeみさわ
三澤敏子

Toshiko Misawa

坂井市丸岡町巽町、丸岡城の外堀に面した「卓球カフェみさわ」。いつもボールが奏でるリズミカルな音が響く。生徒数は32名。皆それぞれの想いでこの場所に集い、卓球で汗を流す。もっとも三澤さんによれば、目指しているのはいわゆる〝卓球クラブ〟ではないのだとか。

三澤敏子さんは、2年前に細幅織物の紋工所をともに営んできた夫、健侑（たけゆき）さんをがんで亡くした。しばらくは悲しみの中から抜け出せないでいた三澤さん。しかし生前、健侑さんが「退院したら一緒に卓球をしよう」と、自宅工場跡に入れてくれた卓球台を前に、「いつまでもうつむいていたら、卓球台を残してくれた夫に申し訳ない」と自らも54年間続けてきた卓球を活かし、平成25年9月に「卓球カフェみさわ」をオープンした。

三澤さんが目指すのは、「みんなが気軽に卓球を楽しめて、悩みを言い合い、くつろげる場所」。2軒隣りの奥永さんは、三澤さんと同じようにご主人を亡くし、ふさぎ込んでいた時期があった。そんな時、三澤さんに卓球カフェでのティータイムに招かれた。「近くにこんな場所があって、本当に助かりました」奥永さんの喜ぶ姿を見て「あぁこれだ。私がやるべき事は」と三澤さんは言う。

地域の人に愛されてこそこの場所があるな、と

夫婦円満の秘訣

寺本 富二夫さん 浩美さん夫妻
卓球で二人の時間を共有、「夫婦で気楽に来られるところが良い」

気分爽快

西川 真寿美さん
「ここに来るといつも良い気分になる。ここがないと困ります」

温泉卓球大好き

佐藤 信子さん
「卓球カフェで過ごす時間は無くてはならないもの」

卓球カフェは地域の方の運動不足解消や健康維持の場でもあり、お姑さんの愚痴や日頃の献立をおしゃべりする憩いの場でもある。

「ココがなかったら卓球できない」

「あぁ、肩が気持ようなったぁ」

「嫌な事もこの間は忘れられる」

「今日はなんて良い日やったんやぁ」、

皆それぞれの想いで卓球カフェを後にする。

三澤さんは言う「来てくれた方が元気になる。それで私も元気をもらう！」。今日もピンポン、元気を打ち合う音が聞こえる。

人生を前向きに

奥永 香代子さん
2軒隣りのご近所さん。
「三澤さんのように前向きに生きたい」

笑いも交えて楽しく教える

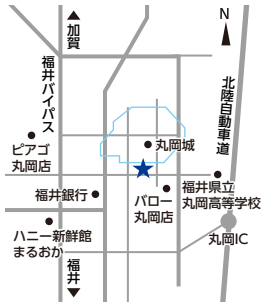
夫が残してくれた１台の卓球台。この場所があるから大丈夫。ここに来れば元気になれる。みんなの悩みが吹き飛ぶ、そんな明るい卓球場にしたかった。

ストレス発散

川嶋　弥生さん
磯部児童クラブの主任先生。
「おしゃべりと適度な運動でリフレッシュできる」

卓球カフェの生徒は大人だけでなく、小学生が４名いる。また、夏休みには磯部児童クラブへ、さらに、毎週火曜には今市児童館へ臨時職員として勤め、それぞれの場所で地域の小中学生たちへ卓球の楽しさを指導している。しかし、「卓球だけ」ではすまないところが三澤さんらしいところ。

きちんとしたあいさつ・礼儀はもちろん、バスケットやフリスビーなどの遊びも全力で楽しむ。「あんたらと遊ぼうと思うと元気でないといかんし」と自慢の手弁当を広げながら、食事の大切さについても助言する。その「ハツラツおばあちゃん」の厳しくもあったかい指導に男の子のファンが急増中だとか…。



卓球Cafeみさわ
坂井市丸岡町巽町1丁目12-3

Profile 三澤敏子

相手には「良い打ち方ですね」「うまくなったね」と長所を見つけながら返球する卓球カフェの名コーチ。自分には厳しく、毎週２回のトレーニングを欠かさない。「卓球の魅力はスマッシュの爽・快・感!」と68歳にしてまだまだ現役、数々の大会にも出場している。
2014年より福井県卓球協会初の女性副会長を務める。
目標は100歳まで卓球カフェを続けること。

取　材……宮本隆行　Art Director…三嶋良晴
撮　影……高橋正勝　写真提供…卓球cafeみさわ

組人についてのお問い合わせ・バックナンバーは
発行元　大一印刷株式会社
〒910-2142　福井県福井市前波町17-6-1
TEL.0776-41-3741　FAX.0776-41-2442
http://bigone-p.com/kumibito/
Find us on: facebook.
企画制作・編集
コミュニティサポート5○プロジェクト

2015.11